

裾野市

所属議員

浅田基行、井出悟

産業目線

【活動選定項目】	①誰もが自由に安心して移動できるモビリティ社会の実現	
具体的取り組み項目	<p>【2024年3月までに】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●岩波駅周辺整備事業など次世代を拓く事業に対し、モビリティを活用した構想が組み込まれるよう議員、会派活動で提案 ●移動の自由を実現する次世代モビリティへの社会受容性を高める機会の創出の提案 ●会派要望項目における移動の自由の実現に向けた提言項目の履行状況の確認 	
前回まで 活動状況	<ul style="list-style-type: none"> ●議員有志グループ「バスに乗ろう会」で、市民とのワークショップを3回開催や議員間討論を経て、公共交通の利活用促進に向けた趣旨書をまとめ、市議会として市長へ要望した。 ●行財政構造改革を加速的に実現させ、モビリティ導入（投資）ができる体制の実現に向けた提案（一般質問等）を実施。 ●会派要望項目における移動の自由の実現に向けた提言項目の履行状況の確認 	
今回 具体的活動	<ul style="list-style-type: none"> ●議員有志「バスに乗ろう会」の提言書が公共交通活性化協議会で扱われ、公共交通計画の参考資料として活用され、公共交通計画の施策に織り込まれた。 https://www.city.susono.shizuoka.jp/kurashi/4/pti/17637.html ●地域公共交通は市費の投入が必須。財政健全化に対する代表質問や一般質問を継続実施している。財政非常事態宣言の解除に向けた事業見直しが精力的に行われていること確認している。 ●地域循環バスの見直しを実施され、その受け止めについて利用者の声を確認。YouTube や SNS を通じ、市民への情報展開と声出しを確認した。 ●「すその de カーボン」を策定し 2050 年カーボンニュートラル実現に向けたロードマップが構築された。公用車のカーボンニュートラル化などに対し BEV 化などの考えについて当局と意見交換を実施した。 <p><トピックス> WovenCity 最寄りの JR 駅「岩波駅」の整備に向けた用地取得、および取り壊しが進んでいる。2024 年度の竣工に向けた WovenCity と 1 級河川の黄瀬川を繋ぐ歩道橋の着工も決定し国との協議が進んでいる。</p>	<p>【図や活動の様子が分かる写真など】</p> <p>公共交通の新計画 裾野市、2022年度中に策定</p> <p>裾野市地域公共交通活性化協議会の初会合がこのほど、市役所で開かれた。2023年度から5カ年の新しい公共交通計画を22年度中に策定する。</p>  <p>市や経済団体、交通事業者、市民団体などの代表31人で組織する。同市の鈴木努市長戦略部長は「市の自主運行バスが廃止になり、国や県の支援を受けて循環バスの運行が始まるなど市内の公共交通は大きな転換期を迎えている」とあいさつし、活発な議論を呼び掛けた。</p> <p>地方では高齢者らの「生活の足」となるバスと電車の路線維持が大きな課題になっている。同市ではトヨタ自動車が発世代技術の実験都市「ウーブン・シティ」を</p> <p>(公共交通活性化協議会)</p>
今後の活動	<ul style="list-style-type: none"> ●モビリティを活用したまちづくりの実現に向けて、企業版ふるさと納税制度を活用できる地域再生計画の見直しを提案活動を実施。（継続） ●行財政構造改革を加速的に実現させ、モビリティ導入（投資）ができる体制の実現に向けた提案活動を実施。（継続） 	